

# 被塗装面検査記録

工事名称		検査年月日	年 月 日
工事場所		主任（監理） 技 術 者	印
測定位置		確 認 者	

検査項目	判定基準	検査方法	判定	処置方法
下 地 コ ン ク リ ー ト の 欠 陥 部  の 下 地 前 コン クリ ー ト	型枠の目違い段差	3mm以上の型枠の目違いや段差は、適切に処理されていること。	目 視	
	豆板(ジャンカ)	すべての豆板(ジャンカ)が適切に処理されていること。 外観にひび割れ、空隙等の異常がないこと。		
	過度の水あばた	広い範囲の水あばたがないこと。		
	ひび割れ コールドジョイント 打ち継ぎ部	すべてのひび割れ・コールドジョイント・打ち継ぎ部が適切に処理されていること。 外観に異常がないこと。		
	レイトンス層	極端に厚いレイトンス部や脆弱部がないこと。	※1の方法と目視	
	硬化不良部	コンクリート表面に型枠、防水剤、養生剤等の影響による硬化不良がないこと。	※2の方法と目視	
	コンクリート表面の異物	鉄筋、針金、木屑その他突起物がないこと。	目 視	
	油脂などの付着物	コンクリート表面に型枠剥離剤、油脂類等が付着していないこと。	※3の方法と目視	
	漏水箇所	漏水箇所がないこと。	目 視	
	セパレータ端部 埋設管回り タラップ 取付金具	セパレータ端部・埋設管回り・タラップ・取付金具は適切に処理され、確実に仕上げられていること。 外観にひび割れ、空隙などの異常がないこと。		
検査方法	※ 測定位置がわかる図面を添付すること。 ※1 レイトンス層や脆弱部は、ケレン工具を用いて表面を削ることによってその状態を確認することができる。 ※2 コンクリート表面の硬化不良部は、外観上、色相差や着色などによって健全な部分と判断できないことが多いが、そのような部分はテストハンマ等で表面を叩く方法によって異常の有無が判断できる。 ※3 コンクリート表面に型枠剥離剤、油脂類等が付着している可能性がある場合は、その表面に水を散布すると判りやすい。 付着物がある場合は、水が吸収され水玉状に弾くことが多い。			

# 塗膜面検査記録

工事名称		検査年月日	年 月 日
工事場所		主任(監理)技術者	印
測定位置		確認者	

検査項目	判定基準	判定	処置方法
塗膜の外観	異物の混入, 著しい塗りむら・たるみ・へこみがないこと。	良・否	
付着強さ	付着強さは, 1.2N/mm <sup>2</sup> (12.2kgf/cm <sup>2</sup> )以上であること。	下表による	
塗膜の厚さ	塗膜の厚さは0.5mm以上で, かつ使用する塗装仕様の標準厚さ以上であること。	下表による	

測定場所	測定位置		付着強さ		破断状況	塗膜の厚さ					判定	
			N/mm <sup>2</sup> (kgf/cm <sup>2</sup> )			(mm)						
			測定値	平均		1	2	3	4	平均		
	1											
	2											
	3											
	1											
	2											
	3											
	1											
	2											
	3											
	1											
	2											
	3											

※ 測定位置がわかる図面を添付すること。